

## 仏教的人生観

仏教の教えを一言で言えば、次の三つの言葉で表すことができます。

- 一、諸行無常（しよぎょうむじょう）
- 一、諸法無我（しよほうむが）
- 一、涅槃寂靜（ねはんじゃくじょう）

これを三法印と言います。

ここまで読んで、「だから仏教は漢字ばかりで困るんじゃ」と言われそうですが、今しばらく辛抱してください。これから分かりやすく説明していきます。

そこでまず、諸行無常ということですが、これはあらゆるものは移り変わるということです。若さも、健康も、人の心も、天気も景気も、みんな変わります。ということは「この世の中のものは何一つあてにならない」ということになります。

続いて、諸法無我ですが、これは、あらゆるものには我がない、すなわち、我一人で存在するということはない、ということです。

お互い、もちつもたれつ、支えあい、支えられあって存在しているということです。

そうしますと、「ワシは社長じゃ」と胸を張っても、社員あっての社長ですし、「親じゃ」と威張ってみても、子があっての親です。

つまり、「何事も自分の思い通りにはいかない」ということになります。

そうして、この二つの道理（諸行無常・諸法無我）をしっかりと見極めることが出来れば、まことに障りのない、自在で安らかな人生が送れる。それが涅槃寂靜ということです。

この三法印をおさらいしますと、

諸行無常・・・世の中はあてにならぬ  
諸法無我・・・何事も思い通りにならぬ  
涅槃寂靜・・・これが分かれば気が楽だ

ということになります。

そうしますと、これを逆に言えば、

- 一、あてにならないものをあてにしようとする。
- 一、思い通りにならないのに思い通りにしようとする。
- 一、それが苦しみの原因である。

ということになります。

三法印は、この世の道理に明るい方（仏さま）の言葉です。

ですから、私たちにとって、唯一、頼りになるものは、この仏さまのお言葉しかないということになります。

くどいようですが、重ねて申します。

「世の中、何一つ頼りにならんぞ！」

「思い通りにはならんぞ！」

「これさえ分かれば気が楽になるぞ！」

これが仏教的人生観であります。

ゆめゆめ、逆三法印の人生観を持たないようにしましょう。

平成17年8月 「光明寺だより41号」より